

## 17: HLA と移植成績

### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
<b>責任者</b> 諫田 淳也	京都大学医学部附属病院	血液内科
熱田 由子	日本造血細胞移植データセンター	
池亀 和博	兵庫医科大学病院	血液内科
一戸 辰夫	広島大学病院	血液内科
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
鬼塚 真仁	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
加藤 俊一	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植再生医療科
川瀬 孝和	広島大学病院	血液内科
神田 善伸	自治医科大学附属病院・附属さいたま医療センター	血液科
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
鋤塚 八千代	名古屋大学医学部附属病院	先端医療開発部 クリニカルデータ品質 管理部門
小林 武	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 いづろ今村病院	
高橋 義行	名古屋大学医学部附属病院	小児科
田中 淳司	東京女子医科大学病院	血液内科
玉置 広哉	兵庫医科大学病院	血液内科
辻 正徳	千葉中央メディカルセンター	内科
西田 徹也	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
前田 嘉信	岡山大学病院	血液・腫瘍内科
増子 正義	新潟大学医歯学総合病院	高密度無菌治療部・血液内科
松野 良介	昭和大学藤が丘病院	小児科
村田 誠	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
森島 聡子	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 (第二内科)
森島 泰雄	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座/中部さい 帯血バンク
横山 寿行	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	血液内科
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
渡邊 修大	名鉄病院	小児科
芦田 隆司	近畿大学医学部附属病院	血液・膠原病内科
高梨 美乃子	日本赤十字社	血液事業本部
星野 匠臣	群馬大学医学部附属病院	血液内科
屋部 登志雄	日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター	検査部検査開発課

坂本 佳奈	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
藤 重夫	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
宮村 耕一	名古屋第一赤十字病院	血液内科
有馬 靖佳	(公財)田附興風会 医学研究所 北野病院	血液内科
近藤 英生	川崎医科大学附属病院	血液内科
吉満 誠	鹿児島大学病院	血液・膠原病内科
河村 浩二	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
河田 岳人	京都大学医学部附属病院	血液内科
岸本 健治	兵庫県立こども病院	小児がん医療センター血液・腫瘍内科
多々良 礼音	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
萩野 剛史	多摩北部医療センター	血液内科
藤原 慎一郎	自治医科大学附属病院	無菌治療部/血液科
下村 良充	地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
坂口 大俊	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター血液腫瘍科
平林 茂樹	京都大学医学部附属病院	血液内科
石井 敬人	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
恩田 佳幸	京都大学医学部附属病院	血液内科
加藤 格	京都大学医学部附属病院	発達小児科学教室
川尻 昭寿	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
進藤 岳郎	京都大学医学部附属病院	血液内科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
野波 篤	久留米大学病院	血液・腫瘍内科
村主 啓行	京都大学医学部附属病院	血液内科
吉永 則良	京都桂病院	血液内科
川島 直実	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
白鳥 聡一	北海道大学病院	血液内科
多田 雄真	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
田上 晋	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
平山 雅浩	三重大学医学部附属病院	小児科
福永 景子	兵庫医科大学病院	血液内科
大引 真理恵	名古屋第一赤十字病院	血液内科

## 2. 会議開催記録(2018年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2018/01/07	国立がん研究センター中央病院	HLA-WG で進行中の研究に関するディスカッション
2018/07/14	名古屋第一赤十字病院	HLA-WG で進行中の研究に関するディスカッション

3. メーリングリストによる意見交換（メーリングリスト開設から 2018 年 12 月末時点まで）  
（ 1380 ）回

4. WG の今後の活動方針・抱負など

HLA 不適合血縁者・非血縁者間移植の移植件数が近年急速に増加しており、HLA 不適合の臨床的意義がますます注目されている。HLA 不適合の意義に関しては少数例での解析は困難であり、学会のデータベースを用いた多数例での研究が非常に重要である。これらの研究により、臨床家に役に立つ解析結果を提供することが本 WG の使命だと考えている。他の WG や研究グループとも積極的に協力しながらより良いエビデンスを確立したい。また検体を用いた研究や前方視的研究に関しても取り組みたい。